

令和 6 年 6 月 7 日現在

機関番号：26401

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2019～2023

課題番号：19K11012

研究課題名（和文）低出生体重児のFamilyConfidenceを育成する看護介入プログラムの開発

研究課題名（英文）Nursing interventionProgram to foster family confidence in low birth weight infants

研究代表者

岩崎 順子（Iwasaki, Junko）

高知県立大学・看護学部・講師

研究者番号：90584326

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は低出生体重児のFamilyConfidenceを育成する看護介入プログラムの開発することである。文献検討及び質問紙調査を通して、FamilyConfidence概念構造および低出生体重児を抱える家族のFamilyConfidenceの特徴について明らかにした。また、これらの結果および看護職者へのインタビューを通して、低出生体重児のFamilyConfidenceを育成する看護介入のコンテンツとして【母親と低出生体重児を中心とした看護介入】【親をコアとした看護介入】【家族システム全体を対象とした看護介入】を抽出し、家族のシステムの階層性から構成される看護介入を開発した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

家族の力を捉え、高めていく[FamilyConfidence]の概念に注目し看護介入プログラムを開発・提案していくことは、低出生体重児を抱える家族が自信をもって子どもを育て、育児に取り組むことができる看護支援の一考察を提案することとなると考える。FamilyConfidenceは、構成概念に「家族としての恒常性」「家族の柔軟さ」「家族のゆとり」といった、家族ならではの強みを内包しており、家族のもつ力を最大限に引き出し発揮することができるような看護介入は、低出生体重児といったリスクをもつ家族に対して更に有用な看護介入プログラムへの発展にもつながっていく。

研究成果の概要（英文）：The purpose of this study is to develop a nursing intervention program to foster family confidence in low birth weight infants. Through a literature review and questionnaire survey, we clarified the conceptual structure of family confidence and the characteristics of family confidence in families with low birth weight infants. Furthermore, through these results and interviews with nurses, we extracted the following nursing intervention content to foster family confidence in low birth weight infants: [nursing intervention centered on the mother and low birth weight infant], [nursing intervention with parents at the core], and [nursing intervention targeting the entire family system], and developed a nursing intervention composed of the hierarchical nature of the family system.

研究分野：家族看護

キーワード：FamilyConfidence 低出生体重児 看護介入

## 1. 研究開始当初の背景

厚生労働省の人口動態統計によると、早産などで体重が 2500 グラム未満で生まれる低出生体重児の割合は、平成 28 年度、男 8.4%、女 10.6%をしめている。低出生体重児の母親は、正常出生体重児の母親と比較し、育児上の問題を抱える者が多く、特に子どもの発育や発達、しつけなどに困難感を訴え、育児不安を感じる人が多いことが報告されている。現在社会において、子育ては母親のみの課題ではなく、家族にとっても発達課題であり、母親のみへの介入だけでは、もはや限界である。家族全体を視野にいれ、家族の力を活用した効果的で継続的な支援が重要であり、低出生体重児といったリスクを抱える家族に対する看護介入は急務となっている。しかし、先行研究では、低出生体重児を抱える家族の体験や思いに関する研究が主として注目されている。看護介入についても、面会時や授乳といった場面における支援や退院後の医療機関との連携などが報告されており、より具体的に家族全体をとらえた支援の開発はされていない。そこで、本研究では、家族の力を捉えていく Family Confidence の概念に注目し看護介入プログラムの開発に取り組んでいく。Family Confidence は、育児における役割獲得だけでなく、家族が家族らしさを大切にしながら家族のもつ力に注目した概念であり、低出生体重児を抱える家族が、家族らしい健やかな生活を構築していく上で新たな看護支援を導く可能性をもち、重要な看護の方略につながっていくものとする。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、低出生体重児を抱える家族の Family Confidence を育成する看護プログラムを開発し、その有効性を明らかにすることとした。

この研究目的を達成するために当初 3 年間における研究計画を設定したが、COVID19 の影響により、研究対象者である低出生体重児家族への研究依頼および看護介入が困難であり、研究方法を再検討・修正し、研究を行った。

## 3. 研究の方法

研究は下記の Step をたどり研究に取り組んだ。

### 1) Step1 Family Confidence の構成概念の抽出

Family Confidence について Confidence および Family Confidence の概念について検索をおこない、明確な Family Confidence の定義がある和文献 11 件、英文献 2 件、及び Family Confidence に関して研究の帰結や概念の一部として記述がみられた英文献 12 件、和文献 139 件参考文献とし、構成概念について抽出し、内容をまとめ整理した。

### 2) Step2 Family Confidence Questionnaire の開発

Family Confidence Questionnaire について文献検討より抽出された 7 つの構成概念より原案を作成し予備調査を実施した。更に質問項目について検討し、本調査として養育期の家族(長子が 0 から 19 歳までの子どもをもつ父親・母親)2500 家族を対象に質問紙の信頼性・妥当性について検討を行った。

### 3) Step3 低出生体重児を抱える家族の Family Confidence の実態

低出生体重児を抱える家族の Family Confidence の特徴について正出生体重児を抱える家族との比較を通して、明らかにすることを目的に研究を行った。出生時の児の体重が正出生体重児および低出生体重児であり、出生時、児の重篤な疾患がなく、質問紙配布時、児の健康状態が良好な乳児をかかえる家族(父親・母親)を対象に、Family Confidence Questionnaire を用いた質問紙調査を行い、2 群間での比較および家族・児の基本的属性との関連について t 検定を用いて分析をおこなった。

### 4) Step4 低出生体重児を抱える家族の Family Confidence を育む看護介入

低出生体重児を抱える家族の Family Confidence を育む看護介入を明らかにすることを目的に、臨床経験 5 年以上で、低出生体重児を抱える家族への看護に携わっている周産期領域および地域の看護師、助産師、保健師を対象に低出生体重児を抱える家族の Family Confidence を育む看護介入について約 60 分間の個別の半構成的インタビューを実施し、質的帰納的に分析をおこなった。

## 4. 研究成果

### 1) Step1 Family Confidence の構成概念の抽出

文献検討の結果、「Confidence」の構成概念について、「Belief in Positive Achievements (ポジティブな成果への信念)」、「Persistence(持続性)」、「Self-Awareness (自己認識)」が抽出された(White,K, 2009)。更に、Family Confidence の構成概念には、「家族の恒常性」、「家族の柔軟さ」、「家族のゆとり」、「家族の目標・希望」、「家族らしさの維持・発展」、「家族の達成への自信」、「家族の問題解決」の 7 つが抽出された。

## 2) Step2 Family Confidence Questionnaire の開発

Family Confidence Questionnaire の質問紙を用いて本調査を行った結果、養育期の家族(長子が0から19歳までの子どもをもつ父親・母親)723名より回答がえられ(回収率20.40%、有効回答率96.02%)た。探索的因子分析の結果、Family Confidence Questionnaire は5因子が抽出され【家族らしさの発揮】【家族の柔軟さ】【家族のゆとり】【家族の目標・希望】【家族の問題解決】と命名した。確認的因子分析結果では適合度指標:GFI 0.761、AGFI 0.734 であり構成概念妥当性が確認されるとともに、関連する質問紙間との相関は、家族からのサポート質問紙 0.645、家族の生活の質(親戚関係/社会参加/ソーシャルサポート)0.535、一般性自己効力感尺度(GSES)0.436 といずれも有意な正の相関がみられ、基準関連妥当性が確認された。また、質問紙の Cronbach' 信頼性係数は、0.982 と高く、内的整合性が確認された。

## 3) Step3 低出生体重児を抱える家族の Family Confidence の実態

低出生体重児を抱える家族28人、正出生体重児を抱える家族43人より回答が得られた(回収率20.9%、有効回答率97.3%)。低出生体重児を抱える家族の Family Confidence は、出生時の状況である早産児、児の体重が2000g未満、児の入院が必要とされる状況において有意に低くなるとともに、低出生体重児を抱える父親・母親ペアデータ間の Family Confidence は、0.857 で強い正の相関がみられ、正出生体重児を抱える家族と比較して特徴的な側面が明らかとなった。低出生体重児を抱える家族全体を対象とし支援していくことの重要性が示唆された。

## 4) Step4 低出生体重児を抱える家族の Family Confidence を育む看護介入

10名看護職者によるインタビュー結果より、低出生体重児を抱える家族の Family Confidence を育む看護介入のコンテンツが抽出された。看護介入は、コアカテゴリーとして表1【母親と低出生体重児を中心とし Family Confidence を育む看護介入】、表2【親をコアとし Family Confidence を育む看護介入】、表3【家族システム全体を対象とし Family Confidence を育む看護介入】が抽出された。表1~3に各カテゴリー、サブカテゴリー、コードについて示す。低出生体重児を抱える家族の Family Confidence を育む看護介入について、これら家族のシステムの階層性の視点から Family Confidence を育てていく看護の重要性が示唆された。

表1 母親と低出生体重児を中心とし Family Confidence を育む看護介入

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	
母親を中心にエンパワメントしていく	母親を中心に支援していく	接する機会の多い母親を中心に支援していく 母親が目標とする育児を目指していく	
	低出生体重児の出生に伴う母親の本音の思いを引き出し支えていく	母親の苦しい思いを自然の脈絡の中で全部吐き出させていく 母親が自ら思いを整理し納得できていくことを待つ 母親を常に擁護し承認していく	
	母親が楽しいと思える時間を作り出していく	育児に関連しない他愛もない話を織り交ぜていく 母親の楽しみへと気持ちが切り替わる時間を作り出していく	
	母親の出産後の心身の健康を優先して整えていく	ユーモアを交えながら児のことを楽しく伝えていく 出産後の母親の身体の回復を優先して支援していく	
	低出生体重児へのケアを介して間接的に家族の安寧を図っていく	児の健やかな成長を促進し、家族の安心につなげていく	NICU 面会による母親の疲労を考慮していく 低出生体重児の日々の成長を家族に強調して伝えていく
		家族と児の分離の中、家族に代わり育児を担っていく	低出生体重児への日々の看護を積み重ねていく 低出生体重児への医療・看護について家族に伝えていく 家族に代わり児への声掛けやタッチングをおこなっていく 家族の希望する育児をケアの中に織り込んでいく

表2 親をコアとし Family Confidence を育む看護介入

カテゴリー	サブカテゴリー	コード
親が低出生体重児の育児のコアとなるように支援していく	低出生体重児の親になる構えを高めていく	低出生体重児を育てていくことへの思いを探っていく 低出生体重児にとって、かけがえのない親としての存在であることを伝えていく 低出生体重児の親になったことへの責任を伝えていく
	親の低出生体重児の育児への主体性を引き出し高めていく	児との分離の中でもわが子と思えるように支援していく 出生後より親と児の距離を近づけていく

表3 家族システム全体を対象とし Family Confidence を育む看護介入

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	
家族を丸ごと理解し、本来持つ家族の力を見出していく	家族の特徴をつかんでいきながら家族を丸ごと理解していく	家族固有の特徴をつかみ取っていく	
		低出生体重児の出生に伴う家族の体験を理解していく	
	本来持つ家族の力を見出していく	家族との時間を共有し関係性をつくっていく	
		チーム・多職種との協働の中で家族の全体像をつかんでいく	
家族にとっての支援のタイミングを見逃さずに捉え、合わせていく	家族の低出生体重児への関わりを妨げないよう、一歩引き関わっていく	家族のこれまでの乗り越え体験を家族の力として捉えていく	
		危機的状況の中でも、本来もつ家族の力を信じて、見出していく	
	家族が低出生体重児を迎えた新しい形を模索しながら創っていく様を見守っていく	子どもと家族の空間を邪魔せず、妨げないように関わっていく	
		家族にとって丁度よい看護者との距離感を推し量っていく	
	低出生体重児を抱える家族の育児ベースに支援のタイミングを合わせていく	家族ができる養育行動を看護者が奪わないように関わっていく	
		家族が紆余曲折しながらも新たに役割調整をしていく様をあせらずに見守っていく	
	低出生体重児出生後の時間軸に沿って家族の力の発揮を支援していく	低出生体重児を家族全員で迎え入れる準備を整えていく	家族が新たな生活を組み立てていく様をゆっくりと見守っていく
			家族の育児パターンを探りながら家族に合わせていく
		育児に向き合える家族のエネルギーを保っていく	前向きに低出生体重児の育児に取り組もうとする家族のサインを見逃さず捉えていく
			低出生体重児を抱えながらも退院に向けて育児をやれそうと思える家族の感覚を待ち支持していく
家族員の力を徐々に家族全体の力につなげていく		家族にとってのベストなタイミングで柔軟に支援していく	
		上の子や祖父母を含めた家族全員を巻き込んでいく	
家族の低出生体重児の育児獲得に向けて段階を経ながら支援していく		家族全員が低出生体重児のイメージをもてるように関わる	
		低出生体重児の出生を家族全員がスムーズに受け入れることができるよう工夫していく	
	低出生体重児の出生に伴い生じる家族の負担を引き受けていく		
	家族でゆったりとできる時間を作っていく		
	家族員の力を他の家族員に徐々につなげていく		
	他の家族員への肯定的な思いを代弁して伝えていく		
	家族の児に関する気がかりを繰り返し確認し解決していく		
	低出生体重児の特徴や育児に関する家族の気づきを高めていく		
	家族が低出生体重児の育児技術の段階を経ながら習得できるように支援していく		

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 3件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 岩崎順子, 野嶋佐由美, 中野綾美	4. 巻 46(2)
2. 論文標題 Family Confidenceの概念および関連要因に関する文献研究	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高知女子大学看護学会誌	6. 最初と最後の頁 13-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩崎順子, 野嶋佐由美, 中野綾美	4. 巻 47(1)
2. 論文標題 Family Confidence Questionnaireの開発	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 高知女子大学看護学会誌	6. 最初と最後の頁 2-11
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 岩崎 順子	4. 巻 24
2. 論文標題 低出生体重児を抱える家族のFamily Confidenceを育む看護介入	5. 発行年 2024年
3. 雑誌名 日本母性看護学会誌	6. 最初と最後の頁 25-31
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) 10.32305/jjsmn.24.2_25	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	中野 綾美 (Nakano Ayami)  (90172361)	高知県立大学・看護学部・教授   (26401)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------